

## 名刺発注の担当者300人へのアンケート結果から考察

# 負担の大きい名刺発注業務の実態と、その解決策とは？

名刺の発注作業は煩雑で、ヒューマンエラーによって作り直しになるケースも少なくありません。ヒューマンエラーを減らす仕組みの一つが名刺発注システムですが、まだ普及していないのが事実です。

本資料では、クラウドサービス型の名刺発注システムを利用していない企業の名刺発注担当者を対象に、名刺発注業務の実態について調査した結果をご紹介します。調査結果から、名刺発注における負担を軽減する方法を考察します。ぜひ、貴社の業務効率化のヒントとしてご活用ください。

### INDEX

エグゼクティブサマリー／調査概要	2
調査結果	3
名刺制作の頻度と人数	3
名刺発注業務の負担と確認作業	4
名刺が完成するまでのやりとり	6
名刺の作り直し	7
クラウドサービス型の名刺発注システムを導入していない理由	8
まとめ	9
クラウド型名刺発注管理サービス「corezo」のご紹介	10

# エグゼクティブサマリー／調査概要

本資料では、従業員数が300人以上の大規模な企業と、299人以下の中・小規模な企業に分けて、企業規模による傾向を考察しました。

## 300人以上の企業では、7割を超える担当者が「名刺発注業務が負担」と回答

- 1か月に2日以上を名刺発注業務に費やしている担当者は54.0%
- 従業員との間で2往復以上のやりとりがある企業が58.1%
- 名刺制作会社との間で2往復以上のやりとりがある企業が69.7%
- 名刺の内容が間違っていて作り直しになることが「よくある」または「たまにある」企業は55.3%

## 総務・人事・調達部門の業務を効率化するには、名刺発注の負担軽減が急務

### 調査概要

本資料記載の「名刺発注業務に関する実態調査」は以下の要領で実施しました。

調査の目的：日本企業の名刺発注業務に関する実態を把握

調査対象：クラウドサービス型の名刺発注システムを利用していない企業の総務・人事・調達部門に所属して、自社全体あるいは所属する部署の名刺発注業務を担当している人

調査時期：2024年10月

スクリーニング調査：2024年10月15日(火)～10月21日(月)

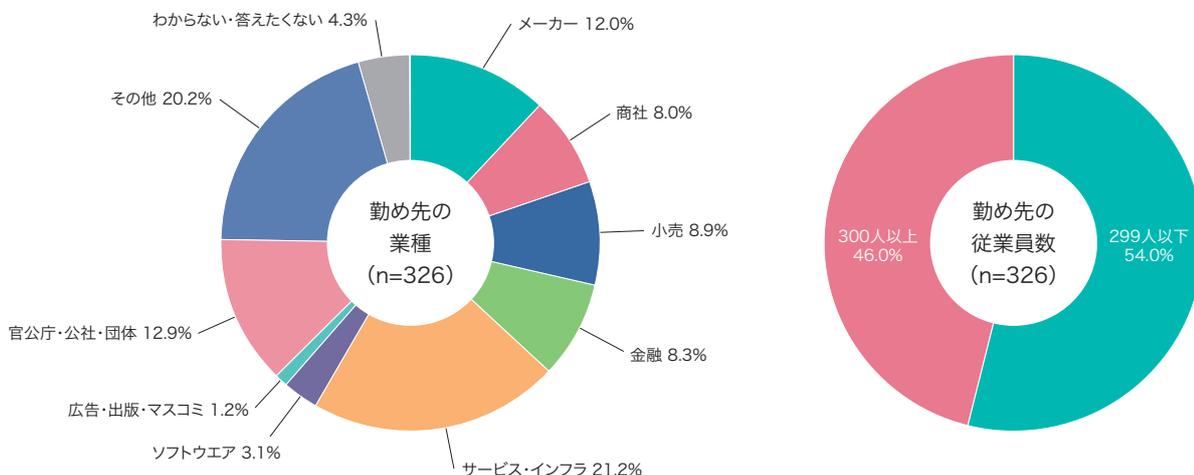
本調査：2024年10月21日(月)～10月24日(木)

調査方法：インターネットリサーチ

調査実施機関：株式会社山櫻

有効回答数：スクリーニング調査14,731 本調査326

### 回答者の勤め先(本調査)



# 名刺制作の頻度と人数

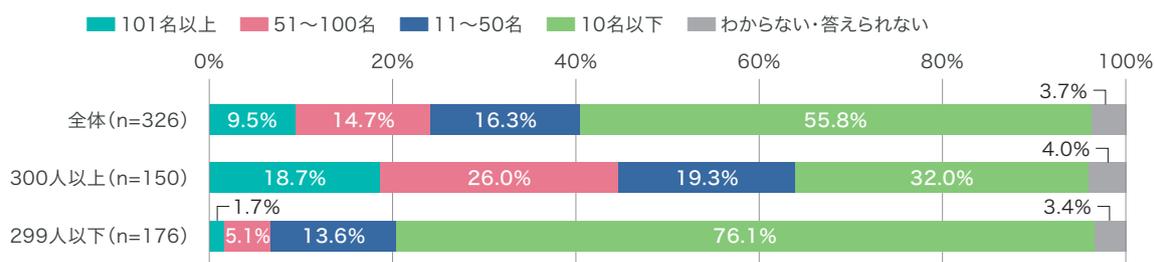
## 300人以上の企業の担当者は、半数以上が1か月に2日以上作業時間を名刺発注業務に費やしています。

1か月あたりの名刺を制作する人数について尋ねました。

300人以上の企業では、「101名以上」が**18.7%**、「51名～100名」が**26.0%**でした。

一方、299人以下の企業では76.1%が「10名以下」と回答しました(図1)。

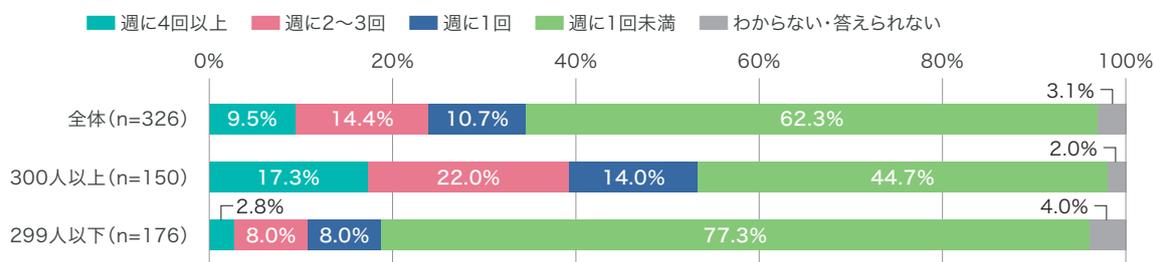
図1 あなたのお勤め先では、1か月あたり、何名分の名刺を発注しますか。(n=326)



続いて、従業員から名刺制作の依頼を受ける頻度について尋ねました。企業規模別に見ると、300人以上の企業では「週に4回以上(17.3%)」、「週に2～3回(22.0%)」、「週に1回(14.0%)」を合わせると**53.3%**に上ります。

一方、299人以下の企業では、77.3%が「週に1回未満」と回答しました(図2)。

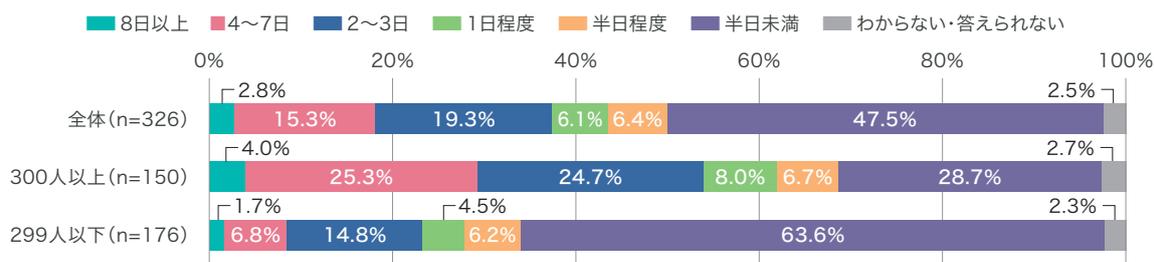
図2 あなたの部署では、どれくらいの頻度で従業員から名刺制作の依頼を受けますか。(n=326)



さらに、1か月あたりの名刺発注業務に費やす時間について尋ねました。

300人以上の企業では「2～3日(24.7%)」、「4～7日(25.3%)」、「8日以上(4.0%)」を合わせると**54.0%**に上りました。一方、299人以下の企業では「2～3日(14.8%)」、「4～7日(6.8%)」、「8日以上(1.7%)」を合わせると23.3%にとどまりました。

図3 あなたの1か月の業務のうち、名刺発注業務に費やしている時間はどれくらいだと思いますか。(n=326)



名刺発注業務の傾向は、企業規模によって大きな違いがありました。従業員数が多い企業では依頼する人数が多いため、名刺を制作する頻度が高く、より多くの時間を名刺制作に費やしていると考えられます。

# 名刺発注業務の負担と確認作業

## 300人以上の企業の担当者は、7割以上が名刺発注業務を負担に感じています。

担当者は、名刺発注業務をどれくらい負担に感じているのでしょうか。年度の切り替えや組織改編などのピーク時と、それ以外の通常時の、それぞれについて尋ねました。

企業規模別に見ると、300人以上の企業では、ピーク時に何らかの負担を感じていると回答した人は**76.0%**、通常時に何らかの負担を感じていると回答した人は**75.4%**でした。ピーク時・通常時ともに、負担を感じている人が**7割を超えていることがわかりました**。一方、299人以下の企業では、ピーク時に何らかの負担を感じていると回答した人は51.7%、通常時に何らかの負担を感じていると回答した人は46.6%で、300人以上の企業よりも大幅に少ないという結果でした(図4、図5)。

あなたは、名刺発注業務のどのようなところが負担だと感じますか。

図4 年度の切り替えや組織改編の時など、名刺発注業務が著しく増える時。(n=326 複数回答可)

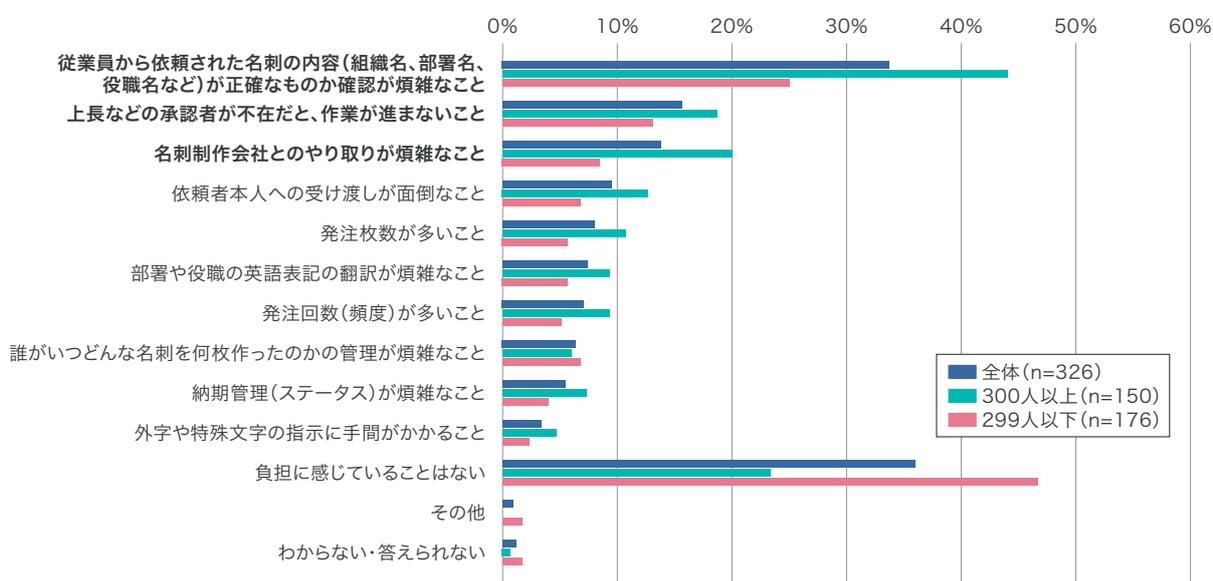
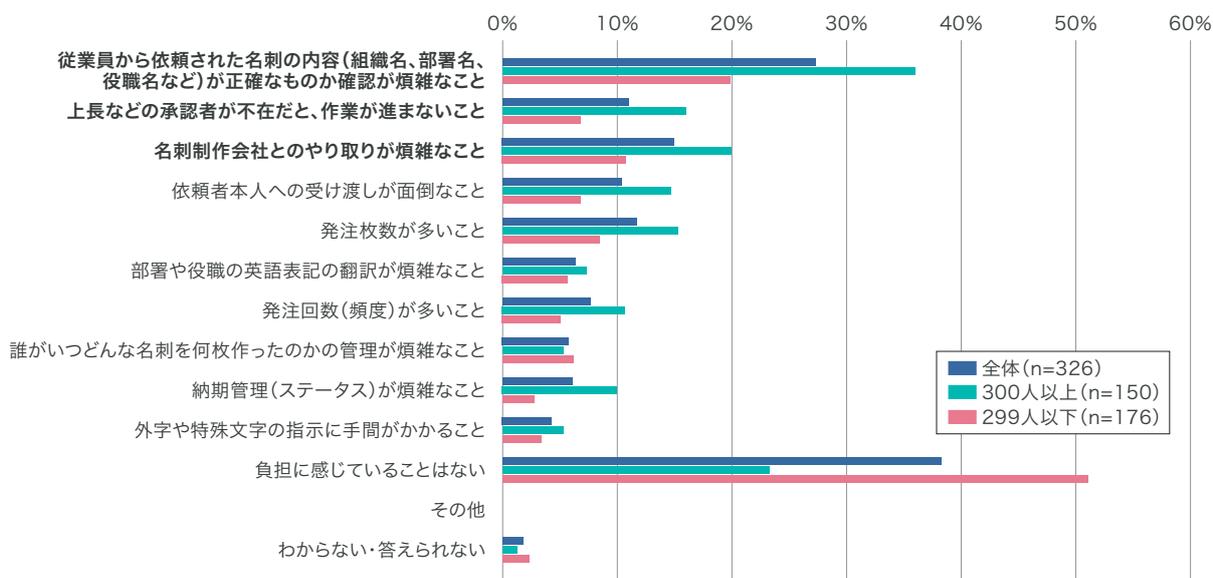


図5 年度の切り替えや組織改編などのピーク時を除いた通常時。(n=326 複数回答可)



それでは、名刺を発注する担当者はどのようなことに負担を感じているのでしょうか。名刺発注業務の状況について見ていきます。

図4と図5から、負担に感じている内容に関しては、300人以上の企業と299人以下の企業に大きな違いはないことがわかりました。最も多かったのは「従業員から依頼された名刺の内容（組織名、部署名、役職名など）が正確なものか確認が煩雑なこと」でした。300人以上の企業では、ピーク時には**44.0%**が「名刺の内容確認」を負担に感じていました。

他の回答としては、「上長などの承認者が不在だと、作業が進まないこと」や、「名刺制作会社とのやりとりが煩雑なこと」も多く挙げられました。

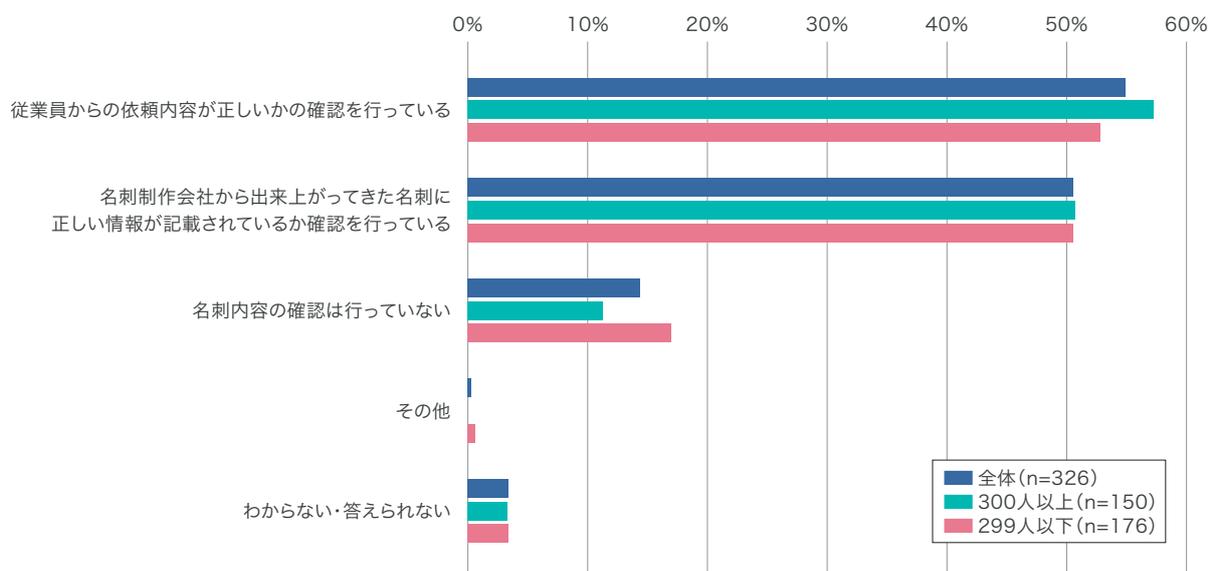
## 企業規模に関わらず、約8割の企業が、名刺発注作業において名刺に記載する情報が正しいかどうかの確認作業を行っています。

名刺発注業務の中でも、負担に感じている担当者が特に多かった「従業員から依頼された名刺の内容の確認」と「名刺制作会社とのやりとり」は、どのように行われているのでしょうか。名刺発注作業において、名刺に記載する情報が正しいかどうかの確認作業（校正）をしているかどうかを尋ねました。

企業規模別に見ると、300人以上の企業では**85.4%**、299人以下の企業では**79.6%**の人が何らかの確認作業を行っています。

確認作業の内容に関しては、企業規模による違いはほとんどありませんでした。「従業員からの依頼内容が正しいかの確認を行っている」、「名刺制作会社から出来上がってきた名刺に正しい情報が記載されているか確認を行っている」のどちらも5割を超えていました（図6）。

図6 あなたは、名刺発注作業において、名刺に記載する情報が正しいかどうかの確認作業（校正）をしていますか。  
(n=326 複数回答可)



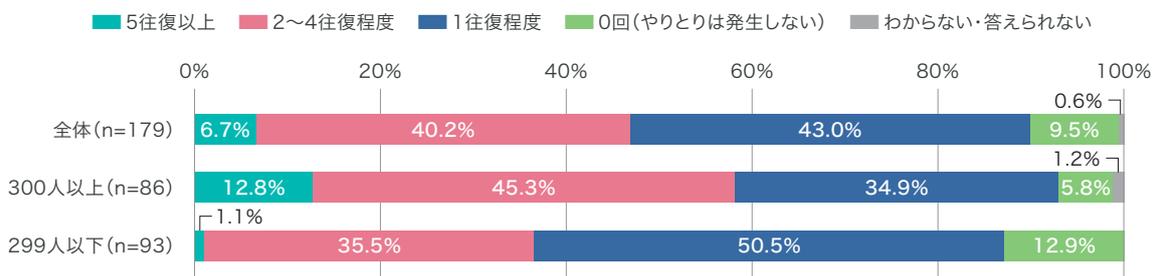
多くの担当者が、名刺に記載する情報の確認作業に手間をかけている実態が明らかになりました。

# 名刺が完成するまでのやりとり

**300人以上の企業の担当者は、1割以上が従業員と5往復以上のやりとりをしています。2往復以上のやりとりをしている担当者は約6割でした。**

図6で「従業員からの依頼内容が正しいかの確認を行っている」と回答した人に、やりとりの回数を尋ねました。企業規模別に見ると、300人以上の企業では、従業員とのやりとりが「5往復以上」という回答が**12.8%**でした。「2～4往復程度(45.3%)」と合わせると**58.1%**に上りました。一方、299人以下の企業では「5往復以上(1.1%)」と「2～4往復程度(35.5%)」を合わせても**36.6%**でした(図7)。

図7 名刺制作の依頼を受けてから、名刺ができ上がるまで、従業員とは何往復くらいのやりとりが発生しますか。(n=179)

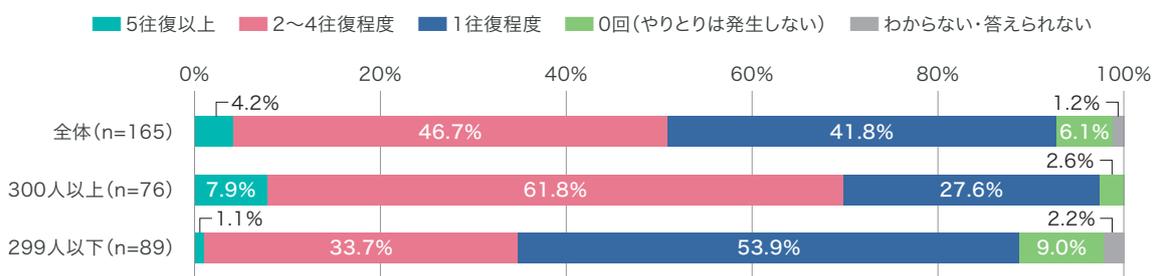


**300人以上の企業の担当者は、7割近くが名刺制作会社と2往復以上のやりとりをしています。**

図6で「名刺制作会社から出来上がってきた名刺に正しい情報が記載されているか確認を行っている」と回答した人に、やりとりの回数を尋ねました。

300人以上の企業では、名刺制作会社とのやりとりが「2～4往復程度(61.8%)」と「5往復以上(7.9%)」を合わせると**69.7%**に上りました。一方、299人以下の企業では「2～4往復程度(33.7%)」と「5往復以上(1.1%)」を合わせても**34.8%**でした(図8)。

図8 名刺制作を発注してから、名刺の納品が完了するまで、名刺制作会社とは何往復くらいのやりとりが発生しますか。(n=165)



300人以上の企業では、多くの担当者が、従業員や名刺制作会社と2往復以上のやりとりを行っている実態が明らかになりました。1割以上の担当者は、従業員と5往復以上ものやりとりを行っています。やりとりの回数が多いため、名刺発注業務に費やす時間が長くなっていると推察されます。

担当者の負担を軽減するためには、名刺に記載する情報の確認作業を効率化し、従業員や名刺制作会社とのやりとりの回数を減らすことが重要です。

# 名刺の作り直し

## 300人以上の企業では半数以上が、名刺の作り直しが「よくある」または「たまにある」と回答しました。

本資料のアンケートは、クラウドサービス型の名刺発注システムを使っていない企業を対象としています。ここまでの結果から、こうした企業では名刺発注業務を負担に感じている担当者が多い実態が明らかになりました。次に、名刺の作り直しについて調査しました。

名刺が作り直しになったことがあるか(自社の指示ミス、制作会社の制作ミス、どちらの場合でも)について尋ねました。300人以上の企業では、名刺の内容が間違っていて作り直しになることが「よくある(10.0%)」と「たまにある(45.3%)」を合わせると**55.3%**に上りました。一方、299人以下の企業では「よくある(1.7%)」と「たまにある(23.9%)」を合わせても25.6%でした。企業規模によって大きな違いがあることがわかりました(図9)。

図9 あなたのお勤め先では、名刺制作会社に依頼した名刺の内容が間違っていて、作り直しになったことはありますか。(n=326)

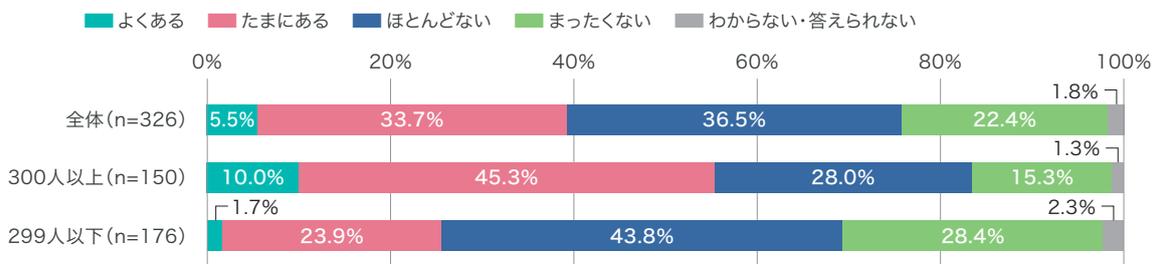
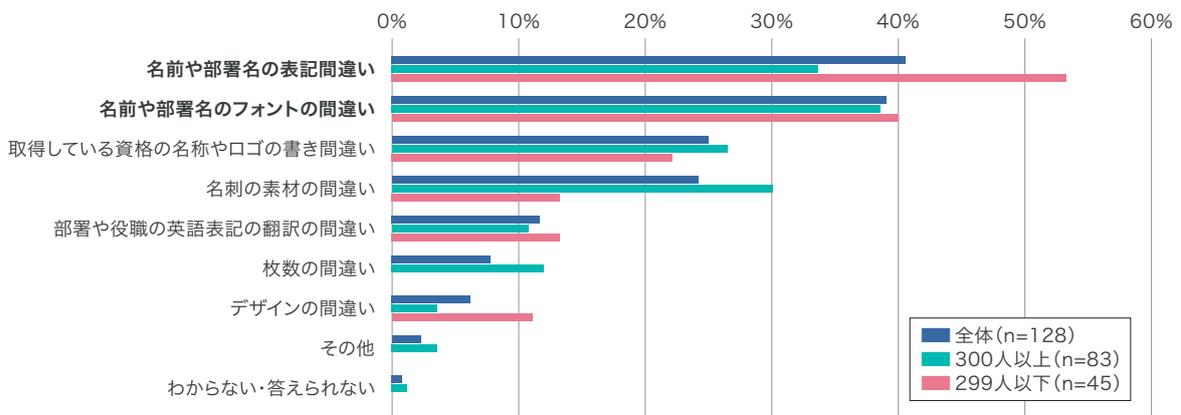


図9で、名刺が作り直しになることが「よくある」または「たまにある」と回答した人に、その原因(自社の指示ミス、制作会社の制作ミス、どちらの場合でも)を尋ねました。300人以上の企業と299人以下の企業のどちらも、「名前や部署名の表記間違い」と「名前や部署名のフォントの間違い」が多く挙げられました(図10)。

図10 名刺が作り直しになった原因はなんですか。(n=326 複数回答可)



担当者が名刺の内容確認を行い、何往復ものやりとりをしても、ヒューマンエラーが発生して名刺が作り直しになっていることが判明しました。作り直しになると、担当者の負担はますます増大します。名刺発注業務を効率化するためには、ヒューマンエラーを防ぐ仕組みが不可欠だと考えられます。

# クラウドサービス型の名刺発注システムを導入していない理由

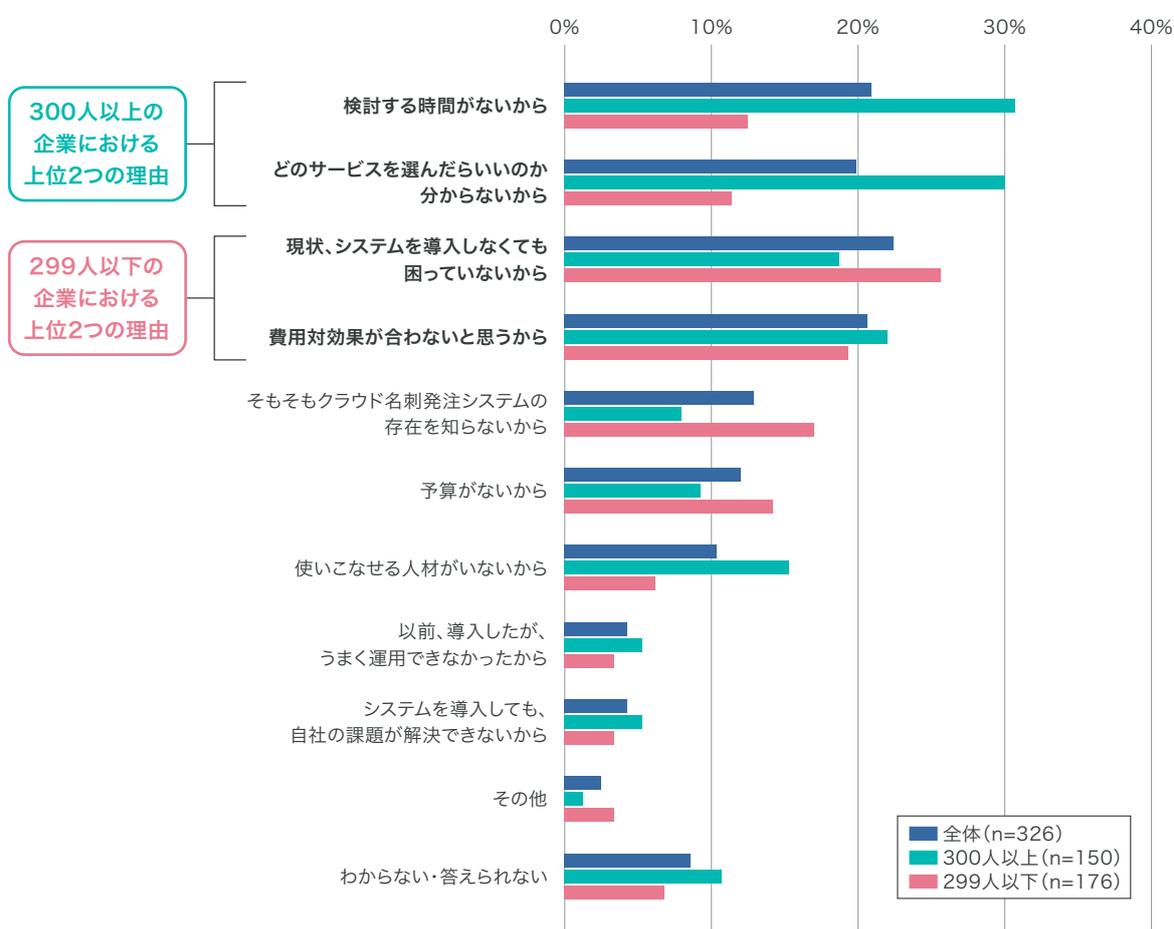
## 300人以上の企業は「検討する時間がないから」、「どのサービスを選んだらいいのかわからないから」と回答しました。

クラウドサービス型の名刺発注システムを導入していない理由を尋ねました。

企業規模別に見ると、300人以上の企業は「検討する時間がないから(30.7%)」が最も多く、次いで「どのサービスを選んだらいいのかわからないから(30.0%)」が多いという結果でした。

一方で、299人以下の企業は「現状、システムを導入しなくても困っていないから(25.6%)」が最も多く、次いで「費用対効果が合わないと思うから(19.3%)」が多いという結果でした。また、17.0%が「そもそもクラウド名刺発注システムの存在を知らないから」と回答しました。

図11 あなたの勤め先で、クラウドサービス型の名刺発注システムの導入をしていないのは、なぜですか。(n=326)



クラウド型名刺発注システムに対する考え方は、企業規模によってははっきりと異なっていました。

300人以上の企業は、システムを導入すれば業務効率化につながることを知りつつも、比較検討して導入を決断する段階まで進むことが難しいと推察されます。自社に適しているクラウドサービス型の名刺発注システムが見つければ、導入を進められる可能性が高いと考えられます。

一方で、299人以下の企業はクラウド型名刺発注システムの存在を知らない場合も多く、知っているも自社には適合しないと考えている割合が高いことがわかりました。

## 300人以上の大規模な企業

### 名刺発注業務を 負担に感じている担当者が 7割を超えている

- 1か月に2日以上を名刺発注業務に費やしている担当者は**54.0%**
- 従業員との間で2往復以上のやりとりがある企業が**58.1%**(5往復以上のやりとりがある企業は**12.8%**)
- 名刺制作会社との間で2往復以上のやりとりがある企業が**69.7%**
- 名刺の内容が間違っていて作り直しになることが「よくある」または「たまにある」企業は**55.3%**

## 299人以下の中・小規模な企業

### 名刺発注業務を 負担に感じている担当者が 約半数

- 1か月に2日以上を名刺発注業務に費やしている担当者は**23.3%**
- 従業員との間で2往復以上のやりとりがある企業が**36.6%**(5往復以上のやりとりがある企業は**1.1%**)
- 名刺制作会社との間で2往復以上のやりとりがある企業が**34.8%**
- 名刺の内容が間違っていて作り直しになることが「よくある」または「たまにある」企業は**25.6%**

名刺発注業務の実態は、企業規模によって大きく異なることがわかりました。

300人以上の企業では、**7割を超える担当者**が名刺発注業務を負担に感じているため、負担軽減が急務といえます。名刺発注業務を効率化することで、担当者はより生産性の高い業務に集中できるようになるでしょう。

### アンケート結果から判明した、名刺発注業務の中でも特に負担の大きい点とは？

(300人以上の企業の場合)

- 1位** 従業員から依頼された名刺の内容が正しいかの確認が煩雑なこと
- 2位** 上長などの承認者が不在だと作業が進まないこと
- 3位** 名刺制作会社とのやりとりが煩雑なこと

## これらの負担を軽減する方法の一つが クラウド型名刺発注システムです

クラウド型名刺発注システムを導入すると、オンライン上で名刺データを作成・管理し、発注まで行うことができます。入力ミス防止機能やプレビュー機能があり、オンラインで申請や承認を行えるため、名刺発注業務を効率化することが可能です。

次のページでは、“名刺の山櫻”がご提供するクラウド型の名刺発注管理サービス「corezo」についてご紹介します。

# Webで申請から承認、発注まで行えるcorezoが 名刺発注業務を効率化。

総務・人事・調達部門の負担軽減に貢献します。

## corezoなら、 名刺発注業務の中でも特に負担が大きい3つの点を解決！

### 1 名刺の確認作業(校正)の手間を減らせる

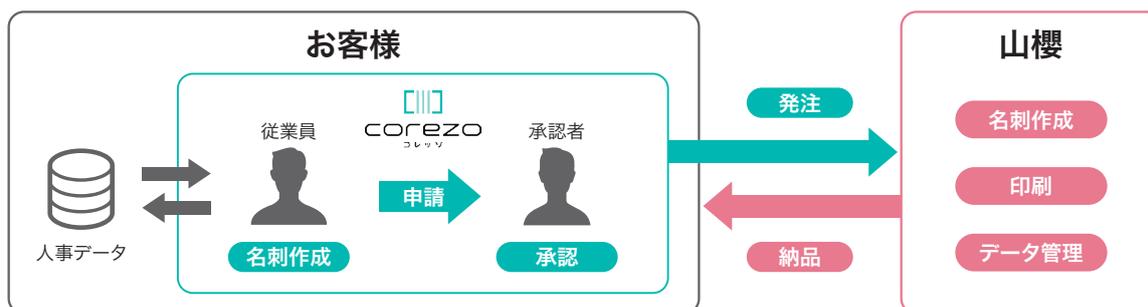
- 従業員が自分のパソコンで名刺のプレビューを確認しながら内容を入力できます。
- 人事データを簡単に取り込めるので、手作業での転記や確認が不要です。
- 入力間違い防止機能や外字機能があるので、ミスを予防できます。また、フォントは自動的に統一されます。
- 認証マークや資格などの項目は、従業員が自由に編集できないように制御できます。

### 2 インターネット環境があれば、いつでもどこでも申請・承認ができる

- 各自のタイミングで申請や承認が行えるので、スムーズに作業が進みます。
- ワークフローの設定はダイレクト発注、一次承認、二次承認の3段階。運用に合わせた柔軟な設定が可能です。

### 3 名刺制作会社とのやりとりを減らせる

- 組版がシステムに搭載されているので、すぐに反映してプレビューで確認できます。メール等での校正のやりとりが不要になります。
- 最新の名刺データをシステムで管理しているので、再発注や修正も簡単に行えます。



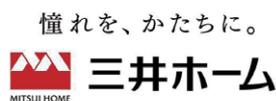
さらなるメリットとして、CI(コーポレートアイデンティティ)/VI(ビジュアルアイデンティティ)に沿ったデザインで名刺を作成できます。企業の顔である名刺に一貫性を持たせることが可能です。

導入実績2000社の経験とノウハウを生かし、  
お客様に合わせた柔軟なシステム対応が可能です。お気軽にご相談ください。

# 導入企業一覧



WELCOME



※公開許可いただいている企業・団体様より一部抜粋(企業名については50音順)



お問い合わせ先

---

<https://service.corezo.yamazakura.jp/inquiry>

お電話でのお問い合わせは

**03-5543-6349** 平日9:00~17:30

株式会社山櫻 〒104-0041 東京都中央区新富二丁目4番7号